

宮崎日日新聞「くらしの相談」掲載記事

○ 国道の排水の改善（平成 22 年 10 月 25 日掲載）

【問い】

私は区長をしているが、地区の住民から、国道の市道との交差点付近の排水が悪く、大雨の時は市道から流れてくる雨水のため国道が川のようになり、大型車が通ると通行人や国道に接する民家の玄関にまで雨水が掛かるという苦情を受けている。排水が悪いのは排水口の数が少ないためだと思われるので、改善策を講じてほしい。

【答え】

相談を受けた行政相談委員が、国道を管理している A 土木事務所の職員と現地を調査したところ、国道の市道と交差する部分には排水用の溝蓋（グレーチング）が無いため、市道から流れる雨水がそのまま国道に流れ込んでいること、また、国道の両側には、グレーチングや側溝に雨水を流す排水口が設置されているものの、その数が少なく、十分に雨水がはけ切れていないことが分かりました。そのため、A 土木事務所では、翌月、国道の市道と交差する箇所にグレーチングを設置するとともに、国道両側については、側溝に雨水を流す排水口の数を増やす工事を実施したところ、雨水の排水が改善され、相談者からも喜ばれました。

【改善後写真】



新たに設置された排水用の溝蓋（グレーチング）



溝蓋（グレーチング）の拡大写真